

《聖書》ルカによる福音書 12:49-53

黙っていることは現状を認めること

映画「四万十川」を見に行った時、ある

場面で強い印象を受けました。

一番下の弟は気のやさしい子で今ま

であまりけんかもしたことはありませんで

した。ある日学校で、家が貧しくて弁当の

おかずも買えなくて、ご飯だけを弁当箱に

入れて来ていた女の子が、みんなから笑い

ものにされていました。その時、弟は黙っ

て見ているだけでした。

家に帰った時、姉が弟に「たとえその

時笑わなかったも、黙って見ていれば、笑

った者と同じや」と言いました。弟は姉

の言葉に励まされて、次ぎの機会には女の

子をかばってけんかまでしてしまいました。

先生はけんかの原因をよく調べず、ただけ

んかを起こした弟を責めるだけでした。

私たちは、ふだんの生活でこれはおかし

いなと思っけていても、こんなことを言っ

たからお互い気まずくなるなど考えてしまっ

て、何も言わずにすごしてしまうことがよ

くあると思っけています。

でも、イエスの呼びかけは、ただ表面的

に平和を守っけていければよいとは言っけていま

せん。むしろ、分裂を恐れるなど言っけてい

ます。たとえ、親しい人と対立することが

あつても、福音的価値観に從つて、はっ

きりと発言すべき時は発言するように求

めています。

利益だけを求める社会の価値観と、人間

ひとりひとりを大切にしていこうとする

福音的価値観とが対立するのはあたりま

えのことです。分裂を恐れていては、

福音的価値観に從つて歩むことはできま

せん。

年間第20主日C年（瀧野正三郎）